

新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- 連日、過去最多の新規陽性者数を記録し（4/18 1,219名）、各年代の新規陽性者数移動平均も増加傾向にあることから、**感染が拡大し続ける恐れがあり、仮にピークアウトしたとしても、新規陽性者の規模が大きすぎることから極めて緩やかな収束になるものと考えられる。**
※4/7時点のシミュレーションでは、直近 1 週間の人口10万人あたり新規陽性者数が
 - ・25人（ステージⅣ）を下回る日は、5月下旬
 - ・15人（ステージⅢ）を下回る日は、5月末から6月上旬 になる見込みであり、感染収束に長期間を要する。
- 推定感染日別陽性者数においても、**4月1日以降の府全域での時短要請又は5日以降の大阪市内を対象とするまん延防止等重点措置における時短要請の効果は、現時点では見られない。**

(2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- **4/1以降に感染したと推定される市外の新規陽性者は増加し、4/5、6に感染したと推定される市内外の新規陽性者も増加。現時点では、時短要請の効果が見られない。**
- 週・人口10万人あたり新規陽性者数も、**全年代で市内外居住者ともに急増し続けており、鈍化傾向が見られない。**
- 感染経路不明者の割合については依然 6 割を超過したままであり、**市内外ともに市中感染が拡大し続けている。**
- **保健所管内別新規陽性者数はいずれの管内もステージⅣの基準を大きく超過し、感染は府全域で急拡大している。**

(3) 夜の街関連やクラスターの発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者の割合は直近 2 週間でやや減少しているが、実数としては緊急事態宣言発出後並み。滞在分類としては、居酒屋・飲食店が依然多く、滞在エリアとしては、市外はやや減少しているが、市内は増加。**
- クラスターは種別・陽性者数ともに、**直近 1 か月で施設関連及び企業事業所関連が急増。**大学・学校関連は3月中旬以降一定数発生。

(4) 変異株の状況

- **変異株PCR検査実施率は、直近 1 週間で28.9%と増加、陽性率は約 8 割。**

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- **重症者数は約1か月で約250名増加し、過去最多となる302名（4/19現在）**となっている。
確保病床を上回る臨時増床や軽症中等症患者受入医療機関等における重症化時の治療継続（54名 4/19現在）、一般医療の一部制限による病床確保等を行ってもなお、**重症病床運用率は97.6%となり、満床の状態。**
- **軽症中等症病床についても、運用率が約85%**（小児・精神患者用病床等約80床を除いた運用率）となり、重症者の治療継続により軽症中等症患者受入可能な病床数は実際より少ないことから、**極めてひっ迫し、早晩、満床の状態となる**ことが見込まれる。
- また、療養者数が1万人を超えて発生しており、**自宅療養者数が8,000人を超過し、重症化時の救急搬送体制に大きな課題を抱える**恐れ。

今後の対応方針について

- **4月1日以降の府全域への時短要請（21時まで）及び5日以降のまん延防止等重点措置における市内飲食店等を対象とした時短要請の効果は、現時点では見られない。**
また、**市中感染が依然拡大**しており、また、飲食店だけではなく、企業事業所関連など、**様々な日常生活の場において感染が拡大**していること、加えて**全保健所管内でステージⅣの基準を大きく超過する陽性者数が発生**していることから、**府全域を対象に、飲食店以外も含めた感染リスクを極力減らすことが必要。**
- ⇒緊急事態宣言発令要請による、**生活や健康の維持のために必要な場合を除いた府民への不要不急の外出の徹底やテレワークの徹底要請**などによる**接触機会の大幅な削減**によって、**府全域で感染拡大を食い止め、感染収束の速度を急速なものとし、医療提供体制のひっ迫を早期に改善していくことが必要**と考える。